LGBTQ+ に寛容な社会を目指して～未来の石川につなげる～

団体名●星稜 Rainbow ／代表者名●島田遥香（人文学部国際文化学科３年）

はじめに

留学を通じて LGBTQ+ の方と関わる機会を得たメンバーが中心となり、2019年に星稜 Rainbow が発足。顧問の小河久志准教授と14名の学生（1年2人、2年4人、3年4人、4年4人）で構成されている。今年度の目標として以下の二つを掲げた。一つ目は、星稜大生が LGBTQ+ をめぐる問題について考えるきっかけを作ることである。昨年度の活動で行った学生向けのアンケートの結果から LGBTQ+ に対する認知度が不十分であることがわかった。そこで、今年度は LGBTQ ＋をめぐる問題に関心を持たない学生へのアプローチに重点を置く。二つ目の目標は、当事者と非当事者が互いに理解し合える環境を星稜大に作ることである。誰にとっても過ごしやすい環境を大学内に作るため、ソフト面だけでなく目に見えるハード面にも働きかける活動を行う。

活動内容

今年度は大きく4つの活動に取り組んだ。

- オンライン勉強会（2020.10/8（木）19:30 ～ .10/10（土）12：30 ～）

LGBTQ+ を身近に考えるきっかけづくりを目的として行った。

勉強会の内容は、はじめに LGBTQ ＋の基礎知識や用語について説明した上で、当事者とアライの芸能人計8人の紹介を行った。最後に SOGI について説明した。参加者は匿名可、顔出しも自由にし、意見や感想、質問などはチャット機能で募った。

- 図書館でのポップ展示（2020.12/14 ～ 1/8）

星稜大学の図書館が企画する「2020輝く☆図書館展示大賞」に以下の企画を応募した。

この企画は、LGBTQ+ を知らない学生にその存在について知ってもらう、そして親しみを持ってもらうきっかけづくりを目的として行った。また当事者にアライがいるということをアピールするという狙いもあった。図書館で行ったのは、多くの学生にこの企画に参加してもらうことを意図したからである。具体的には、LGBTQ+ について基礎的な知識を学べる本から、当事者が主人公である小説など20冊弱の本を展示した。またその中から6冊を選びメンバーがポップを作成した。この他にも昨年度に参加したレインボーパレードで集めた参加者の声をまとめたレポートを自由に閲覧できるようにしたり、我々が作成したアライステッカーを配布したりした。

- メンバー内での勉強会（2020.6.13/2021.1.7）

活動を働きかける私たちがさらに LGBTQ ＋への理解を深めるために、メンバー内で勉強会を行った。各メンバーが気になった LGBTQ+ に関するニュースや出来事（新聞記事、インターネット記事、SNS など）を紹介しあい、ディスカッションを行った。

- 教職員へのアンケート

星稜大学の教職員を対象に Google form を用いてアンケートを行い、62件の回答を得た。アンケートは当事者が過ごしやすい環境づくりのためのアイデアを得ることを目的に行った。「LGBTQ ＋に関することで気になったことや問題意識を盛ったことはありますか？それはどんなことですか？」、「本大学や他大学でいいと思う LGBTQ ＋に関する取り組みをなにか知っていますか？どんなものですか？」など

の質問項目を設けた。

成果、結果の考察

• オンライン勉強会

コロナ禍でもできる活動として企画した。1日目は4人、2日目は1人の参加者があった。参加者から「わかりやすい内容で勉強になった」という声があったことから、事前知識がなくてもわかりやすい、またLGBTQ+を身近な存在として考えてもらえるような資料を作成することができたと考える。反省点としては、イベントの周知が遅くなったことが挙げられる。余裕をもって告知できればより多くの参加者を募ることができたと考える。

• 図書館でのポップ展示

展示した本の多くが貸し出されていた。また足を止めて展示物を見てくれる人も多く見られた。レインボーフラッグを立てたりカラフルな色を使ってポスターやポップを作成したことで関心を持ってもらえたと考える。これらの点が評価され、我々の企画は図書館から特別賞を頂くことができた。

• 教職員へのアンケート

教職員からの回答を通して今後の活動において必要だと感じたことは、以下の三点である。

・学生に対する情報支援だけでなく、教職員に対する情報支援の必要性。
・ハード面(気持ちの問題とかではなく、制度そのもの)について提案を行う必要性。
・多様な存在がいることは特別でない＝誰もがそのうちの一人ということを認識する重要性。

これらを意識して今後どのような活動やアプローチができるのかを考えていきたい。

今後の課題、展望

来年度もちいプロとしての活動を継続していきたいと考えている。なぜなら、それによって本活動をさらに続けることができるとともに、単独では難しい大きな課題や目標にも取り組めると考えるからである。今後取り組みたい活動は以下の２つである。

• シンポジウム

当事者を招いてお話をうかがいたい。当事者も非当事者も違いはないことを本学の学生に身近に感じてもらう。

• 制度の再考

LGBTQ+の「T」のに該当する方の短大入学の希望があった場合の対応についてなど、制度面の問題に対してどのような配慮ができるかを考えたい。